

# テーマ 「表現の自由」をどう考えるか

発行日

8月24日

発行所(氏名)

明桜中学校  
第2学年生徒

I このテーマの記事を選んだ理由を書いてください。

あいちトリエンナーレで「平和の少女像」などの展示が中止されたというニュースを知った時、  
ぼくは日韓問題なのだと思った。韓国の日本大使館前、総領事館前に設置された像をめぐり外交問題があり、像は反日の象徴だと認識していた。展示に抗議する気持ちも理解できた。では芸術とどんな関係があるのか、どんな問題があるのか知りたくなったから。

II 比べる記事のそれぞれの内容について分かったことを書いてください。

①について「表現の自由」とは、どういうものかについて述べている。大嫌いな表現をも尊重するのが「表現の自由」の核心であり、美術館などは、国民が多様な表現を通じて様々な価値観を学ぶ場であるという点、日本は多様な価値観の共存を許さない国だと表現している。

企画展は制作者の意図を知り、賛否両方の立場の人が集まって考え、場であるべき。  
②について中止を求めた名古屋市長と、それを批判する愛知県知事の応酬があったこと、異なる観点から中止の賛否を掲載。危機管理上、中止はやむを得ず、反発を考慮し、もとの十分な説明が必要だ、たという肯定的意見と類似犯への懸念や、公的お世芸術祭でも行政の意見を表明する必要がある、市長は職権乱用という否定的意見があること。

①と②を比べて分かったこと自分で調べてみたいこと。

①は二貫して中止を否定し、②は否定に加え、中止やむを得ずという肯定的意見も載せている。①の記事から学ぶべき事は多かたが、②の様に反対意見を添えることで両側面から考える機会を与えられるのも重要と感じた。平和の少女像「制作意図を調べたい」と思った。

III テーマについて、自分の考えや他の人と交流をして気付いたこと、調べたこと、提案などを書いてください。

「表現の不自由展は、過去に展示不許可になつた作品を示し、表現の自由について考える企画である。た、作品選択基準は「過去の展示不許可」である。」「いい作品」と推す訳ではなく、まして賛意を示しているのではない。この趣旨をもっと分かりやすく示し、理解してもらいたい。良かったと思う。正直ぼくは「平和の少女像」は反日の象徴と受けとめて、二貫などで目にすると韓国から日本への憎悪を宛き付けられていたように、嫌な気持ちになつた。そんな像をあえて美術館に観に行くのは不思議に感じました。でもこの記事をきっかけに調べてみると、制作者の意図はそうではなく、共感と平和への想いについてあるという。最終的にどう感じるかは人それぞれかもしれない。だが、知ることには重要だと感じた。現代美術には社会に潜む問題や異なると考えを視覚的に示す表現も少なくないこと知り、社会的文化の背景の異なる他者の表現に触れる機会であると思つた。受け入れられない表現もあるかも知れない、それはそれでいい。ただ、知ることすること、表現の意図を知り受け入れられない機会を得ることが、多様性を認め合う世界平和への第一歩だと感じた。